

## ご議論いただきたい主な論点

### <論点1>

#### 今後の地域づくりのあり方

- ◆ 地域における包括的な支援体制を検討する際には、断らない相談支援や、社会とのつながりや参加の支援のための方策とともに、多様なコミュニティにおけるつながりを育むための方策を検討することが必要
- ◆ 誰もが多様な経路で社会に参加することができる環境を確保する観点からは、地域の持続可能性への視点を持つとともに、まちづくり・地域産業など他の分野との連携・協働を強化することが必要

### <論点2>福祉の観点からの地域づくり

- ◆ 地域づくりを進めていく上では、世代や属性を横断して、以下の機能の確保が必要と考えられるが、いかがか。
  1. ケア・支え合う関係性を広げつなげていくコーディネート機能
  2. 住民同士が出会うことのできる“場”、地域における“居場所”

- ◆ このうち1. の機能については主に以下の①～③の役割を持つと考えられるが、いかがか。

#### <コーディネート機能の主な役割>

- ① 社会資源の開発
- ② ネットワークの構築（連携体制の構築、情報の共有）
- ③ 顔の見える関係性の中での共感や気づきに基づく、人と人、人と地域資源のマッチング

- ◆ また、地域づくりの実践を踏まえながら、福祉分野における地域づくりを推進していくための方策として、どのようなことが考えられるか。

（包括的な支援の機能の整理）

- ◆ これまでの議論等を踏まえた、新たな包括的な支援において求められる機能の整理へのご意見（資料1P22）

### <論点3>多様な担い手の参画による地域共生に資する地域活動の促進

- ◆ 地域・コミュニティ支援の政策が重ね合わさることによる相乗効果を念頭に置くと、分野ごとの政策を今後も一層強化していくとともに、福祉、地方創生、まちづくり、地域自治、環境などを含め、地域を構成し地域の持続に取り組む多様な主体が出会い、学びあうことのできる「プラットフォーム」を構築することが必要なのではないか。
- ◆ さらに、この「プラットフォーム」における気づきを契機として、複数分野が協働しながら地域づくりに向けた活動を展開するための支援方策についても検討すべきではないか。

#### <論点 4> 包括的な支援体制の整備のあり方

- ◆ 自治体内における分野横断の議論や試行錯誤を行えるようなプロセスの柔軟性を価値の一つとして位置づけ、新たな制度の創設を検討する場合にも、自治体の裁量の幅を確保できるような設計とすべきと考えるが、いかがか。
  
- ◆ その際、国による財政支援についても、
  - ・ 地域の多様なニーズに合わせて、分野・属性横断的に一体的・柔軟に活用することができる
  - ・ 煩雑な事務処理を行うことなく支援を提供できるなど、一人ひとりのニーズや地域の個別性に基づいて、柔軟かつ円滑に支援が提供できるような仕組みを検討すべきと考えるが、いかがか。
  
- ◆ 同時に、自治体における事業の実施の支障とならないよう留意しつつ、経費の性格の維持など国による財政保障のあり方にも十分配慮することが必要と考えられるが、いかがか。